

はもりあ

「はもりあ」とは造語で、女性と男性の協働という素敵な“ハーモニー”が奏でられる“中核エリア”という意味です。
2006年10月に公募で決定した男女共同参画センターの愛称です。

2017年4月発行

日が暮れるのもぐっと遅くなり、春の日差しを感じる季節になりました。毎年のことですが、はもりあの職員も別れあり、新しい出会いもありの中で新年度を迎えました。今年度も、たくさんの事業を企画して、皆さんと触れ合いながら、男女共同参画を少しでも前に進めたいと思っています。はもりあは新しい所長を迎えます。今年度も皆さんに親しんでいただけるよう職員一同頑張りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

★市長にズバリ聞きました!!★

男女共同参画について元気もりもりインタビュー

平成29年3月4日に「イクボス宣言」を行った森市長に、市長として、また家庭人として考える「男女共同参画」について、インタビューをしました。



【森 智広市長】

Q：日々の生活のなかで、男女共同参画が進んでいると感じることは？

市長：女性の方が、がんばる姿をよくみるようになりましたね。例えば私はラグビーをやっているのですが、女子ラグビーがさかんになってきましたし、女性の競技でも国際大会などでいい成績をおさめたり。場面は違いますが、学校にいくと生徒会長を女の子がしたりしていますね。また、待機児童の増加は問題ですが、需要が増えるということは女性が社会へ出て働くという意思をもっているということなのかなと。そういう意味では、以前よりも女性が外に出て働く時代になったのかなと感じますね。

Q：イクボス宣言の中でワーク・ライフ・バランスにもふれていますが、市長ご自身が考えるワーク・ライフ・バランスとはズバリ？

市長：昔は、残業しないなど、勤務時間を減らすことがワーク・ライフ・バランスだと思っていましたが、今は、心の豊かさを享受することだと考えています。仕事と仕事以外の時間を調和させることが大切で、限られた時間の中でも

中身が充実したものになれば、それがワーク・ライフ・バランスなのかなと思っています。

Q：男女共同参画の視点から見た、家庭人としてご自身に点数をつけるならズバリ何点ですか？

市長：30点くらいで、今は35点になってきたかなと。イクボス宣言をしたこと、「やらなあかん」という風に自分の中でも意識が芽生えたり、市民の方にもみられるので模範になるようにしなければいけないと。子どもとの時間も取るようになって子どもの笑顔も増え、妻にもほめられるんですよ。

Q：最後に、男女共同参画社会の実現に向け、市民の方にメッセージをお願いします。

市長：本市でも、長く、男女共同参画活動に尽力された方々の活動の成果で今があると思っています。性別にかかわらず、のびのびと生きられる様な社会にしたいと考えています。能力があるのに発揮できずに人生を過ごすことは不幸なことだと思っているので、挑戦できる機会は平等にないといけない、それをどのようにつくっていけるのかが、これから課せられているのかなと思います。参画は進んできたといえども、まだ管理職や議員も女性の割合が少ない。女性の能力を発揮できる場、機会はまだまだ多いと思いますので、手のつかめるような社会にしていきたいと思います。



森市長が取り組まれている「元気もりもりの四日市」にするため、女性も男性もいきいきと活躍できる男女共同参画の視点は必要不可欠だと思います。はもりあ四日市は、今年度もいろいろな角度から様々な事業を実施してまいりますので、皆さんもぜひ参加していただき、男女が共により暮らしやすい社会となるよう、一緒に考え方行動していきましょう。